

公表 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		ともいきスクール				公表日	2026年 3月 14日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		お子様が自分のペースで過ごせる「静養スペース」や「個室」を常設し、状況に応じて即座に提供できるよう配慮しています		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		虐待防止マニュアルを整備し、定期的に研修を実施しています。また、言語聴覚士等の専門職を含む適切な人員配置を行い、管理者の目が常に行き届く体制を整えています。さらに、全フロアに防犯カメラを設置し、リアルタイムで支援状況を常時確認することで、支援の透明性と安全性を徹底しています。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		言語聴覚士による専門療育を行う際は、1Fの静かな個別療育スペースを活用。感覚過敏や集中が必要なお子様のために、パーテーションや個室等を用いて視覚・聴覚情報を調整した環境を整えています		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		職員間で清掃箇所を分担・固定し、責任を持って環境整備を行うことで、お子様が常に清潔で心地よく過ごせる空間を維持しています		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		お子様の安全を第一に考え、指摘のあった階段への手すり設置工事を実施（または計画）し、転倒防止対策を強化しました。また、視覚的に理解しやすいスケジュール提示やピクトグラムを活用し、どのお子様も安全かつ自立して活動できる環境作りに努めています		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎日の振り返りや月1回の職員会議を通じ、支援の質の向上と業務改善を継続的にを行っています		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		年度末に実施するアンケート結果を真摯に受け止め、集計結果とそれに対する事業所の方針を速やかに公表しています。いただいたご要望は、即座に日々の運営会議のアジェンダ（議題）として取り扱っています		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		チーム内でのコミュニケーションを活性化させ、日々の気づきや課題を即座に共有・検討し、支援の質の向上に繋げています		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		今後は外部の視点を取り入れることで、さらなる客観的な評価とサービスの質の透明性を追求していく方針です	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○				
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		療育の5領域（健康・生活、運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性）をバランスよく取り入れたプログラムを掲示し、活動のねらいを可視化しています		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者を中心に、全スタッフが多角的な視点で意見を出し合い、お子様の最善の利益を追求した計画を策定しています		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画書は常に全職員が確認できる状態で管理し、出勤時のミーティングや引継ぎ時に、各お子様の目標と当日の支援の留意点を再確認しています		

15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の活動中の様子を細かく観察（インフォーマルアセスメント）し、お子様の小さな変化や成長の兆しを見逃さないよう努めています。それらの情報をスタッフ間で共有し、支援の方向性を随時微調整しています	
16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		5領域を網羅した計画を作成しています。不登校のお子様には再登校や社会参加を見据えた目標を設定し、11月からは言語聴覚士の知見を導入することで、コミュニケーション面等の専門性をさらに高めた計画内容へ更新しています	
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		「作ってみたい料理」や「行きたい場所」など、お子様の主体性と興味を最優先に尊重したプログラム構成をチームで企画しています	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		お子様の興味関心の移り変わりに合わせ、新しい遊びや工作、季節を感じられるイベントを定期的に企画しています。常に新鮮な刺激があるよう、スタッフ同士でアイデアを出し合っています	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		児発管を中心に、保育士、指導員、そして11月からは言語聴覚士も加わり、多職種による会議（ケース検討会）を通じて多角的な視点で計画を作成しています。外部の相談員やヘルパー等とも情報を共有し、一貫性のある支援を目指しています	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎朝のミーティングでその日の利用児のコンディションや支援目標を全スタッフで共有しています。11月からは言語聴覚士も加わり、専門的な視点からその日の言葉掛けや配慮事項を事前に確認することで、スタッフ間の連携を強化しています	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後に全スタッフで詳細な振り返りを行い、気づきや変化を記録することで、翌日以降のより細やかな支援に反映させています	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		活動の記録等、記入をしている	日々の活動記録の質をさらに高め、分析に基づいた継続的な支援のブラッシュアップを強化していきます
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年毎にモニタリングを行い、計画の見直しを行っている	
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○		日常生活の自立支援に加え、創作活動や季節のイベント、言語聴覚士によるSST、地域資源を活用した外出活動など、4つの領域をバランスよく組み合わせた多彩なプログラムを提供しています	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		活動内容や玩具、おやつ等を自分で選べる「選択肢」を提示しています。また、不登校のお子様に対しては、その日のコンディションに合わせて活動場所やメニューを自分で決めるプロセスを大切に、自信と自己決定力を育てています	
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		相談員やヘルパーと役割分担を明確にし、ご家庭全体を多角的にケアしています。役所とも密に連携しており、地域における不登校支援の拠点として、お子様の社会参加に向けた包括的なサポート体制を構築しています	
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校・相談員・ヘルパーと密に連携し、当事業所への通所が「出席認定」となるケースや、「別室登校・授業参加」へのステップアップを実現したお子様を多数輩出しています。この実績は役所からも高く評価されており、学校教諭の訪問受け入れや情報共有を常時行い、教育と福祉が一体となった支援を実践しています	

関係機関や保護者との連携	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○	対象児童がない	今後必要に応じて、対応していく
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	お子様の将来を見据え、学校との「心理的な距離」を縮める移行支援に注力しています。長期休暇等を利用し、学校の先生方と協力して校内施設での活動を実現させるなど、事業所外での実体験を通じた自立支援プログラムを積極的に取り入れています	就労や進学を見据え、関係機関との連携を強化しながら、お子様の未来に向けたスムーズな移行支援の準備を進めてまいります
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	学校施設の借用や、近隣公園の利用等を通じ、地域社会の中でお子様が安心して過ごせる機会を作っています	
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。		○		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。		○	事業所内での様子を伝えるだけでなく、ヘルパー等と連携してお子様と保護者様双方の心理的ケアに努めています。家庭内での課題に対しても、関係機関と足並みを揃えて対応することで、保護者様が孤立せず、安心してお子様を見守れる環境づくりをサポートしています	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	定期的な面談に加え、**11月からは言語聴覚士による専門的な視点での助言(家庭での言葉掛けやコミュニケーションの工夫等)**を個別に行っています。また、必要に応じて外部の研修情報等の提供も実施しています	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。		○	契約時に説明をしています	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。		○	面談等で子どもや保護者の聞き取りを行っている	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。		○	計画書を作成後、保護者にご確認頂き、署名を頂いている	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		○	面談に加え、SNS(LINE)等も活用し、保護者様がいつでも気軽に相談できる体制を整えています。特に言語や発達に関する悩みに対しては、言語聴覚士が専門的な立場から寄り添い、具体的な助言を行うことで、ご家族の安心感に繋がっています	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		○		対応があった際は適切に対応していきます
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		○	アプリにて情報発信している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		○	職員一同留意しています	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		○	特性に合わせて写真やイラスト(視覚支援)を用いた対応を行い、確実な情報伝達に努めています。11月からは言語聴覚士のアドバイスを受け、お子様がより理解しやすく、意思を伝えやすいコミュニケーションツールの活用も進めています	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種リスク管理マニュアルを策定し、職員間で周知・訓練を行っています。防犯面については、マニュアルの運用に加えて防犯カメラによる常時見守り体制を敷くことで、有事の際の迅速な対応と未然防止を徹底しています	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		防災センターでの体験学習や実践的な避難訓練を定期化し、お子様自身の安全意識の向上と、職員の即応体制の強化を図っています	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時に保護者から確認しアセスメントを行った際にも新しい状況が把握できるように努めています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			クッキング等のイベント時には、保護者との綿密なやりとりのもとに対応していく
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			「安全に終わりはない」という意識を徹底し、定期的なリスクマネジメント会議を通じて、事故防止体制を常にアップデートしていきます
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事例が発生した際は、即座に全スタッフで共有し、原因分析と再発防止策を検討しています。防犯カメラの映像を振り返りに活用することで、状況を客観的に把握し、より実効性の高い対策を講じるよう努めています	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止マニュアルに基づき、全職員を対象とした研修を定期的実施しています。また、防犯カメラによる常時確認体制や、専門職（言語聴覚士）を含む複数名による相互チェック機能を持たせることで、不適切な関わりの未然防止を徹底しています	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		現在、身体拘束が必要な子どもはいませんが、契約時に説明し、やむを得ずの場合は了解を得ている		